

編輯後記

▽十月といつてもまだ舊曆の八月、秋氣爽涼の時、こゝに第四百三號——改組よりの第三冊目——を高覽に供へます。内容外観漸く整つてまゐりましたものの、まだまだこんなことでは満足出来ませんので、更に更に努力を惜しまぬ覺悟をします。皆様にも今後一層の御支持、御指導を切にお願ひ申し上げます。

▽本號は武智氏の丸本劇の批評(四十三枚)鴻池氏の東西三座評(二十枚)量からいつても實からいつても斷然異彩あるもので、まことに本誌以外に得易からぬものと信じます。とくに本誌の「妹背山」の思ひ出にそれとなく現代の名優達へ研鑽の指示を與へられた坂本猿冠者氏は、以前に文士畫家劇、演藝通話會等で輕妙な舞臺を見せられました。が、今は全く玄人の域に入り、文學座の一員として年來愈々枯淡な藝を見せてゐられます。

▽辻部氏の「近世淨曲巨匠私見」は長年月に亘る同氏の淨曲觀賞の所産になるもので、號を逐うて順次巨匠を祖上にのせて嚴正な批判を下し、現代の大夫との比較に及ばれる豫定でありますから御期待下さい。古作氏の投稿一篇は若人の熱情に充ち満ちたもので長文乍ら登載しました。

▽大西氏の人形研究は正に油が乗つて來て、本號の「引窓」は愈々興味深く、また永遠の生命ある好參考資料であり、本誌獨特の記録原稿の一つであります。

▽装畫を執筆下さいました山崎豊氏は青龍社同人、齋藤清二郎氏は春陽會會員として夫々重きをなす方で、本誌に對して御寄せ下さいました御厚意を紙上を借りて御禮申し上げます。

▽淨曲の新たな研究會と脚本(丸本)の朗讀會を興さんものと、同人森が林、大西共々しきりに案を練つて居られますから、近き内に實現さるゝことと思ひます。詳細はわざと爰に略しますが、御期待下さい。

▽都市と地方とを問はず、淨曲その他の藝術通信を奮つてお寄せ下さるやう切望いたして居ります。

(仲秋名月の日)

淨瑠璃雜誌 昭和十六年十月號

(第四百三號) 毎月一回發行

●本誌 第一部 金五十錢
●定價 半ヶ年 金三圓
●價 十二冊 金五圓

- 御注文は一切前金の事
- 雜誌發送を以て領收證に代ゆ
- 外國送りは一冊に付郵税十錢を要す
- 振替は浪花名物淨瑠璃雜誌社。
- 座穴版二三九二八番

廣告料

- 普通 一行 金三十錢
- 一等 一行 金二十圓
- 二等 一行 金二十圓
- 特等 一行 金三十圓

- 特等は一行以下の需に應ぜず六回以上の特約には割引す
- 製版を要する時は其實費を申受く
- 廣告料は總て前金の事
- 一行九ポイント活字

大坂市西區平本通二ノ三二

發行所 樋口虎之助
編輯人 坂口秀吉
印刷所 高尾印刷所
大阪市西區江戶橋下通四ノ三〇
大阪市西區江戶橋下通四ノ三〇